

水源禪師法話集 127

(2024年9月22日大阪法話会二日目)

六祖壇經解説

2024年11月27日

一乗禪の会



目次

水源禪師法話

ヒンドゥーと仏教.....	3
日本の禪は入口だけ.....	5
莊嚴浄土自性心地の世界.....	7
禪定と大燈明.....	8
無情では何も発生しない.....	10
浄土.....	13
正しい懺悔をして、三身を観る.....	15
定慧.....	19
阿頼耶識に在る無量の過去.....	23
大宇宙を包む虚空.....	24
無上大涅槃.....	26



水源禪師法話

ヒンドゥーと仏教

さっき、皆さんとお話した時に、結局インドはヴェーダ、ウパニシャッド、ヒンドゥーイズム、ブディズム、ジャイニズム、こういう分裂があるのです。今、長年インドから仏教が消え去って、その後残ったのはブラフミンとヒンドゥーですね。ジャイナ教も残って。ジャイナ教は特別な集団で、その集団以外の人はいれない。仏教は全て受け入れると。上下なく皆同じ心で。何をしたかに依って生き方が決まる。社会的な規制では決めていない。

ところが、ヒンドゥー教は生まれた所で決まってしまうから。武士階級は武士階級。宗教界は宗教界。庶民は庶民。労働者と四階級に分かれて来たのは、アリア人がインドに入ってから決まった事であって。その前にハラッパ・カルチャーがあるわけです。ハラッパ、モヘンジョ・ダロがあって、それが一部南インドに残っているのだけれど。サンスクリット語の主導権を握って、それが未だに続いているのですけれど。

この歴史を辿れば、ペルシャ宗教のゾロアスターと一体化して、それが全世界に伝わった宗教なわけです。だから、それを、ブッダが出てから、その間違いを正したわけです。例えば、男尊女卑が徹底しているから、それを打ち破ったわけです。だから非常に迫害を仏教は受けた。

ところが、男女無くして世の中は成り立たないわけです。さっき言ったようにポジティブとネガティブがあるけど、ネガティブばかりで全部削って行ってしまうたら、ポジティブが無くなってしまう。大好きな「無」の世界。「無」も分からないで、「無。無。」と言っているけど。非常に深い奥義があって。無の本源は有なのです。存在。存在と無が一体化している。存在があるから無があるわけです。

無の本源を言ってみなさいと言ったら、「無は全ての存在がある」と。「それは簡単に証明出来ます。微積分でゼロからどんな世界でも私は作り上げます。」と。ではそれを「どう証明するのか？あんだ、無無と言っているけど、知っているのか？」

仏教ではこの無を通過しなければ、次の段階に入って行きません。非常に重要な科目です。もし、私が、「ゼロです」「じゃあゼロを証明しなさい」だーれも証明出来ない。もらうのはね、げんこつ一発。「はい。もう一回やり直し！」そんなものです。日本全国。「ゼロです」「無無」これは困った事で。

非常に大宇宙の真理の奥底で。口で言うのと、実際に体験して応用できるかどうかによって、「OK、行きなさい。」となるわけだ。証明しなければならない。口でも何でも良いから証明。で、初めて認可されて次の段階に行ける。これが臨済の手法です。

ま、そういう事で、仏教とブラーミンのヒンドゥーの違いを説明しておきます。何故なら、このまま説明して行っても、仏教なのかヒンドゥーなのかこんがらがってしまうでしょ？そして、元々のヒンドゥー教は、非常に高度な文明を持った、何て言ったかな？北極の近くにあった超文明が、その昔、「地球が全部氷になるから南に行きなさい」と。南極もその当時は氷が無かったわけ。反転して、何かが発生したのは、宇宙のアズーラマズーラというペルシャの大神様から報告があって、それで全部逃げて。それでも北極と南

極の一部にアルカムという超文明の痕跡があるわけ。

リチャード・バード(1888-1957、元アメリカ海軍少将、探検家)が飛行機で北極の上を飛んだ時に、自動的に、北極の地下に降りて行って、忠告されたわけ。「原爆は絶対に使っちゃいけないよ。」と。又、南極の方にも超文明が残っているから、遺跡が今発見されて。シダ類や樹木、色んな建造物、遺体の服装はエジプト文明と一緒に。急に強烈な寒気が来て、そこで逃げ遅れて、眠って。体形は皆9尺。2m70cm。アリゾナのグランドキャニオンにも9尺のミイラとして遺体が飾ってあるわけ。アフリカのナイジェリアの上の辺り、ここに300体の9尺の遺体が埋められている。その前にも巨人が居たみたいだけど、その時代からこの地球は大きく変わったみたい。全て。

その時代のほとんどの文明が滅びて、インドのヒンドゥーが出て来たわけ。太古の昔は4階級だったけれども。ブラーミン、宗教団体は四人の奥さんをもりました。クシャトリアという武士階級は三人のお嫁さん。そして商人は二人。その下の庶民派一人。さらに下の奴隷は奥さん無しという事で。現在のヒンドゥーは非常に混乱しているわけ。

昔、仏教がそれをぶち破って、全ての階級に法を教えたわけです。差別なく。その日から大いにインドの文明が発展したわけです。ブラーミンは「神は在る」と。仏教は「そういう神はいない」と。全てが転生するから、人間も神になったりする。神に幾ら拜んでも、この世がそのように成るわけではないと。

そして、仏教は、カースト制度は認めません。同じ人間という観点に立っている。又、お祭りとか、お祈りとかそういう事はしません。ヒンドゥーは生贄をするようなお祭りをして、神に祈るのが大好きで。人間の習性で、ほとんどがそうなっているけど、仏教は只、自分の進化だけが最も大切な事。

それに、ヒンドゥーは生まれによって、もう決定しているわけです。昔、日本も武士階級とか農業階級、商業階級、職人と分かれていましたけど。仏教が日本に間違っ入って来ている事もあるわけです。でも、非常に高德な教えを達磨大師様が金剛般若波羅蜜経を持って来て、中国で大いに栄えた。それでも、六祖大師の時代に成れば、相当、中国全体の仏教がおかしくなっ。

達磨大師様の、昨日説明したような、慧可、僧璨、道信、弘忍、慧能によって、完全に中国へと法が移って来たわけです。その最終的な本当のダルマ(法)の花が咲きました。法海禪師が、先生が涅槃に入られた後は、衣とお鉢をどうしますか?と。「それはここに置いておきます」と。「将来これを受け取る方が出るか。ここに置いておきます」「では、その後どうするんですか?」と問うと、「この経典をもらった人が私の弟子だという事になります」と。

で、四十三名の経典をもらう方が出たけども、千三百年間、壇経が世に出た事はないのです。これが発行されたのは、2013年。慧能大師様が昇天されて、1300年経って。香港の大金持ちの方なのでしょね、そこに一冊だけが残って。百年ぐらい前に。

それを120歳まで生きて、三朝の時代にそれぞれの皇帝に、民国の蔣介石、又は毛沢東に助言した方でもあり、この方も全身舍利になって即身成仏となった虚雲大師様。この方もこの経典を点検したわけです。「その通りである」と。

そして、憨山大師も。その前の泰倉禪師も発端です。昨日も説明したように、これだけの経典が全て間違い。この経典を全て研究した方が東北大の中川孝先生。「この経典を見て死にたい。原本を見て死にたい」というのがこれです。これはお釈迦様の究極の中核の教えなのです。このお経が完全に一致しているのが、前に私が訳した大梵

天王問佛決疑經なのです。大梵天王問佛決疑經の前に訳したのが、竜宮でお話したという仏説海龍王經。大事な事は、「身口意の十善をなさい」と。それを訳したから、大梵天王問佛決疑經が突然、私の目に触れて、この決疑經の内容は本物だと。

それで、中国に行って、もう一回、大梵天王問佛決疑經を訳したものをチベットのお寺に持って行って、「これをぜひ、調べてくれ」と。何故かといったら、「チベット仏教にもこの經典はあるはずだから。とても大事な經典です」と。

で、その後、私は南華寺。慧能大師様が全身舍利となって、座られている所にお参りに行ったわけです。その時に見せた、詩ですね。私がこの「過去七仏」と書いた事にショックを受けて、去る前にこの六祖壇經を進呈されたわけです。このお經の内容に「過去七仏」とは書いていないのですが、過去七仏のそれぞれの名前が書いてあるわけです。故に過去七仏と書いた事で大ショックを受けたわけです。これは秘密の言葉であって。それで、この六祖壇經を初めて日本で紹介しているわけです。

そして、このお經の般若心經の解説は、天を衝く程の解説で。その当時、お釈迦様が般若心經を解説したのは確か。だから、最初の転法輪を回して、五人の仲間が全てアラハトに成ったのは、もちろんそうなります。一般の人々でも全て悟りを開く解説です。只、般若心經の解説の内容を見たら、大変な事を書いている。これをお釈迦様から聞いたら、悟りを開かないわけがないというくらい強烈なものです。だから、ブッダというのは非常に尊い、稀に出会う宇宙の華なわけです。

日本の禪は入口だけ

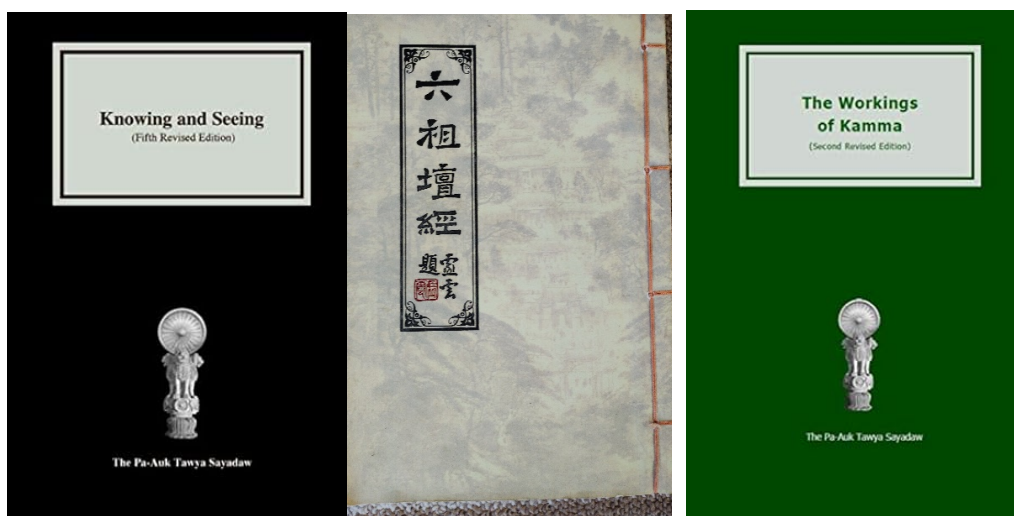
次に本題に入って。昨日は第一、第二を解説したから、今日は第三に入ろうかなと思っているけども。

虚雲先生が十三代ダライ・ラマと話をして一体化(大乘と密教)するよう努力したわけです。内容は一緒という事で。表面は違うけど。そして、残念な事に、日本にはこの經典(壇經)は伝わっていない。もし、日本に1300年前にちゃんと伝わって、解読出来る人が居たら、今の日本は全く違う別世界に成っているはず。タイ以上の仏教大世界に成っている。タイ仏教凄いでしょう？それ以上に成っているはず。曹洞宗の道元先生が一所懸命持って帰られたのだけれど、それは入口の事であって、内容の本題に入っていない。

特に黙照禪と言って、黙って照らす禪というのは、ニミッタを出さなきゃいけない。何故かと言ったら、正法眼蔵というのは、全宇宙を照らし観るという事。中国の經典にそう書いてある。それは、愛と慈悲と歓喜と静寂の世界を通過して初めて観える。慈悲喜捨(メッタ、カルナ、ムディタ、ウペカ)は第四禪定に入っていくところの大事などで、それが正法眼蔵に入っていく時の鍵で、それをやれば、正に大宇宙を観る事が出来ます。一瞬にして。

だから、解脱。確かに解脱はしたのだろうけれども、その奥が必要なわけです。解脱したならば、「知見」と言います。知って見る。Knowing and Seeing(パオ・セヤドー著)一緒の事。

これ Knowing and Seeing と、この六祖壇經は一体化しているわけです。



左から「Knowing and Seeing」, 「六祖壇經」, 「The Working of Karma」

私が超ラッキーだったのは、パオ・セヤドーに出会って、法随観、ヴィパッサナー、そういう天眼を得る事が出来る教科ですけれども、これ見てください。非常に細かく書いて、只、瞑想するだけでは通過出来ないくらい難しい教科です。これは初歩。これからこれくらい(The Working of Karma)に成っている。これを全部通過しなければ、ダンマヌパッサナーは終わっていないと。

お釈迦様が教えたこのダンマヌパッサナー(法随観)、達磨大師様のチッタヌパッサナー(心随観)、ゴエンカ様のヴェダヌパッサナー(受随観)、マハーシのカーヤヌパッサナー(身随観)。これらが一体化しているわけです。一つ通過したら、残り全部通過しなければならない。それで初めて通過したという事になる。それは結局、私は体験に基づいて言っています。西洋の文献からこれが非常に近いわけです。心の洞察が一番下が、差別とか妬みになっている。今の私達の世界はここ。愛をしっかりと人はここ。キリスト教が「愛、愛」と言って、全く実践出来ない



だから、愛をしっかりと知った人=メッタ(慈)を知った人はアインシュタインの上に成る

わけ。心が。大きさ(右の数値)も書いてありますね。

話を戻して、般若心経の解説ですけども。この説をしっかり分かった場合には、「心の中に、巨大な空の中に太陽が輝いて出て来ます」と。確かにその通り。何故そうなるかをダーッと説明しているけど、ま、そういう現象が起こります。時々、瞑想していたら。真っ白い太陽の光がバーッと発生してしまう。

般若心経をしっかり読んだ場合には、四句でも五句でも。言ったでしょう？般若心経の核心は無所得。これも無所得。この経典も無所得。一体化しています。バラバラになっていない。繋がっている。無所得という事も非常に大切に、体感していかなければならない。何もなくていいのか？乞食に成ればいいのか？否。とんでもない話で、この無所得は有と無の関係であって、全く違う。心の中で無所得という事を明解に体感しなければ、無所得は分かっていないという事で。

無は完全に有の世界であり、有は無の世界であるという関係があります。それは微積分のゼロで。私はどんな世界でも創りあげる事が出来るという。無が有になる。有が無になる。

最低、「無、無」と言っている人に、「あんたそれ、微積分で証明出来るのか？」と。数学をやった人間は出来る。数学をやらない人間は全くのお手上げ。只、全て。全て。と。何が全てかも分からないはず。仏教はそれくらい、最高の恵みを受けます。

莊嚴浄土自性心地の世界

本題に入って、達磨大師様はその昔、インドから来て。武帝が「私は一生この世で、お寺を造ったり、お坊さんを供養した。この高德は如何ほどか？」と。「それは水をザルですくうようなもので、高德は無い」と言っただらう。怒って、6回も毒殺しようとした。結局、それは無所得の高徳と彼が理解したら、まるまるで、達磨大師様が其処に居たけども、この皇帝は「お金これくらい払ったから、おつりがこれくらい来るだろうな」では、仏教の世界では高德に成らない。無駄な事なのです。

一番大切な事は、つまり、心の本性をしっかりと観るという事が大切であり、これが本当の高徳であると。つまり、「莊嚴浄土自性心地」の世界に入れると。これでは自性心地に入れなさいと言っているわけです。

お釈迦様が舍衛城、コーサラ国の街で、どういう風にしたら阿弥陀の国に行けるか？という説法をしたと。それは、昨日説明したように八つの邪をしないという事。それから、十の善をすれば、一瞬の如く阿弥陀の国に入ると。もちろん、身口意で。

お釈迦様が海龍王に教えた身口意で十善とこの八邪を実行して生きて行けば、一瞬で心のスターゲートが開いて、阿弥陀の国に入ると。幾ら「阿弥陀様、阿弥陀様」と一所懸命に呼んでも意味が無いと。人から泥棒して、悪い事して、何しても、阿弥陀と唱えれば行けると。そういう宇宙の法は無い。だから、非常に簡単な事で。日々悠然と生きて行けば、ぐっすり眠れて問題ない。そういう生活をしなさいと。

人間の心には西も東も北も南も無い。同じ心だから。だから、誰でもこれを実行すれば、浄土に行けますよと言っている。

このとても大事な所が、これまで何重と訳されてきた経典に無いわけ。とても大事な事。この詩が。お父さん、お母さんの事とか書いている。これからゆっくり解説して、死

るわけです。この光というのは説明が出来ない。正に大燈明、ディーパンカラブッダという名前を付けるしかない。

だから、この人間界の理解というのは、偉い人があれやこれやと考えて作成した世界とはまた別で。スーパーAI になれば、簡単に作成出来るわけです。何故かと言ったら、南極にはオクタゴンという建物が在って、米軍が其処に人を入れないようにしているけど。ネイビーシールズが其処に入って行ったわけ。その人の話に依れば、手を当てたら巨大なドアがスーッと開くと。ネイビーシールズはアメリカのトップの軍隊ですね。その人が中に入ったら、光がサーッと明るくなって。何処から光が出ているか分からない。巨大な天井も1kmから2km空中に浮いて、部屋が在って。その中にある文字は、インカのマヤ文明。一尺四方の四角い硬い石に、一寸くらい深く彫られている。ザーツと。

そして、不思議な事にサンスクリット語でも書かれている。二つの言葉で。ところが、この物件は南極に氷が無い時代、3300万年前と今の時間の関係で言われている。今の時間の測定は、はっきり言って分からないわけです。何が一秒か。というのは、マチュピチュのマヤ文明の時計は600年に一秒しか狂わないけど。グレゴリオ暦のカレンダーは4年で6時間違うわけです。

だから、私達の文明はまだまだ。けれども、「Knowing and Seeing」のダンマヌパッサナーをやれば、それを飛び越す智慧が入って来ます。これもこの経典も実際に瞑想をして体験しなければ意味が無いわけです。これ見てください。これくらい複雑な教科が書かれているわけです。一つ一つ全部通過しなければならない。私が最初これを見た時に、「嘘でしょう？2600年前に！？」と思った。科学者でも出来ないのに！何とか不思議と通過して行って。頭ではなく、心でやるから。何が発生するか分からないけど。ま、そういう事が、第四番で書かれている。

結局、「何の法だ。何の法だ」と。先入観で縛られて、そこから進化出来ない。只座りなさいと。不動。だから、曹洞宗では只管打坐と。考えるのを止めて、只、座りなさいと。全ては私が説明するように、全て因縁であるから。その中で、無情であるけれども。情が無い。無情は機械的な人生に成るから。それは非常に障害を起こす。因縁とか。これ見てください。宇宙的な考えでも、冷淡(50)。心が非常に低い所。良い因縁は発生しない。



良い友人を作れば、良い事ばかり起きるわけです。このビルディングを自由に使わせて、莫大な金を掛けて改築してくれたのは私の友人の O さんで。高校生時代から、なんだかんだと言って、無情ではないわけ。信頼があって、愛以上でやり取りをしているから、こういう風に「使ってくれ」となるわけ。

私が在学していた大坂港区の高校に日本で唯一のクラブが在ったのです。「ロゴス部＝哲学クラブ」と。今度、高校卒業して60年以上になるかな？私が声をかけたら、ちゃんと覚えてくれていて、来月、10月に会って歓談しようとなったのです。これは無情ではないわけ。60年経ってもちゃんと出て来るわけ。嬉しそうに「会いたい」と。無常だったら、「忙しいからねえ」なんかかかんとかと成るわけ。ところが、その情があるから、「会いたい。何時？何処？」と。60年経っても。これが本当の人間の生き方で。ああ、やっぱり大阪は良いなあ。情の心で大都市だなあと(笑)。

私がロゴス部の部長をやったんだけど、覚えておいてくれて、O さんはもちろん、ロゴス部で会おうとなったわけ。その当時、色々対談したわけだ。人生とは？何だかんだと。だから、この「冷淡」はネガティブな人生。今度、S さん、長野大学の学長だった、「はい」と覚えてくれていて。

全て心と心の出会い。礼儀ではなく。それは日本だけではないですよ。チベットで出会った素晴らしいお坊さんがちゃんと覚えておいてくれて、最高のおもてなしをしてくれて。中国の仏教大学の最高峰の方も、20年前、スリランカで出会って、ちゃんと覚えてくれていて最高のおもてなしをしてくれるわけです。

つまり、心と心の出会いという。悪い方になったら、人殺しの仲間になったりする。良い方の出会いになれば、こういう事が発生する。無情という生き方はネガティブな事になりますね。

無情では何も発生しない

この般若波羅蜜の経を読んで、検証し、ちゃんと理解したら、無量の高徳があると。無量無辺。量とエリアが計り知れないくらいの高徳があると。それで、達磨大師様、慧

可、僧璨、道信、弘忍、慧能。六金剛と言います。チベット仏教では五金剛が在って。その最後が毘盧遮那仏。毘盧遮那仏は全ての仏と一体化しているから全ての仏と同じイメージで出て来るわけ。普通の人はその内殿には入れない。私には見せてくれた。そこで、一番大事な事は無情ではダメで。

無情亦無種。無生亦無情とあって、何も発生しない。非常に大切な所。ところが、現代は機械化で一心になって無情でやっているわけです。だから、尼さんのタモさんという方が、政治家達に、「これからお前達はどうするのか？日本は破滅するぞ」と言って、でも、「分かっているけど、悪い事が止められない。」と。(笑)。「分かっています！でも、止められないのです！」って。仕方ないから、そういう世の中だから。

皆さんに言っているのは、個人で成長して行って、この世を去る前に、この最高の所に到達すれば、間違いなく次の世も、一番良い世界に生まれ変わります。その方法も難しくなく、さっき言ったように、八邪をしない。十善を身口意でやれば、一瞬にして阿弥陀の国に行けるとちゃんと書いてある。私もそう思う。

忍野八海で、皆さんと瞑想した時に、白衣観音様が現れて、それから阿弥陀様がサッと出て来たでしょ？そこで瞑想された方は、阿弥陀の国行ける切符をもらったのだから、落とさないように。あれは本物ですよ。阿弥陀様が出て来た時の身体の色を、私が高野山のE寺さんで報告したら、「これは秘伝です」とショックを受けて。阿弥陀様を彫った仏像を見せてくれたわけです。その色で出て来たから本物です。私が創りあげた事ではなく、その通り。仏像は極秘のドアを開けた所に、「この色でしょう？」「はい。そうです」と。

だから、「過去七仏」とか暗号があるわけです。そうしたら、こういう風に經典を受けとれると。幾ら博士号を百並べても受け取れないわけです。

皆さんは元々、浄土の自性心を持っているわけです。莊嚴浄土。その幕を開けるか開けないかはあなた次第。元々全て持っている。だから、その幕をどうやって開けるのか。今、教えたでしょ？非常に簡単。心のスターゲートがオープンするから、それでスーッと。問題はね、死ぬ時にちゃんと実行出来るか出来ないか。だから、普段から実行していれば出来ます。死ぬ直前になって心のスターゲートを開けようと思っても、それは無理な話。私の先生が言いました。「7回唱えれば行けるのでしょうか？」「否。君、そんなものじゃないよ。エベレストの山が被さって来る時、その圧力で、考えられるのか？」と。それが実際。自分の意思で出来る？とんでもない。普段からやっているから、行けるのであって。

だから、浄土真宗で名号を唱えるというのは、一心にそれを唱えて、それを思い続けて、もちろん、五戒を守って行けば、開くのでしょうか。酒飲んで何しても？それは行けない。

その事で、博士課程のお坊さんに、「その經典を見せてくれ」と。「無い」と。で、彼はすぐに学校を辞めた。嘘を教えるわけにはいかない。それが正解だけど。全てはあなたの方の心の中にあるから。それは縁によってだけ、芽が開くか開かないかによる。だから、このような凄い經典の縁を持って、皆さんは芽を開き始めているから。

この、善知識で一瞬でも良いから、一刹那でも良いから照らせば、心の中が浄化されてしまう。という力を皆さんは持っている。一瞬、刹那で出会う。その因縁は、道を歩いていけば会うのか？白隠禅師様みたいに、一晚座って、鶏が鳴いた瞬間に、一瞬にしてパッと明るく。そういう事。

全ては、眼耳鼻舌身意。六門。全て浄化されているものだから、嫌な事は避けて。人殺しの場面を見たら、夜眠れなくなるし。そういう場面には滅多に出会わないけど、会ったら大変ですね。私の同僚が、交通公社に務めているから、彼の責任では無いけれど、車が突っ込んできて、人が死んだわけです。「お前、顔色おかしいな?」「うん。実は・・・事故で人殺した」と。クビにはならないよ。たまたま突っ込んで来て人が死んだから。ところが、自分で殺していなくても、顔色が青くて死にそうな顔をしていた。ましてや、人を殺したとなると。まあ、逃げ出す事だね。その現場。

何故かと言ったら、私が学生時代に大いに流行った映画があるのですよ。「人間の条件」9時間の映画。私は弁当を持って、朝から晩まで食べながら観た。6部構成。知っていますか?

参加者 Sさん「はい。知っています。見ました。」

良かった。存在する。その映画の最大のテーマは、愛。愛以外に無い。無駄死にしちゃダメですよ。どんな事があっても、兵隊にはならないでください。今の兵隊は無駄に人を殺す事ばかりやっているから。国を護る兵隊は素晴らしい。それがテーマ。この映画を作られた監督は凄い方だと思いました。だから、日本にはこういう素晴らしい方がいっぱい居るのですよ。

素晴らしい映画だったでしょう? 9時間! 朝から晩まで。弁当持って(笑)。やっぱりあれもすごい影響がありましたね。愛という事が凄く大事だと。命をかける必要があるという。素晴らしい先輩がいっぱい居たのです。日本には。さあ、どうなるかね。嬉しいですね。あなたも同じ映画を見られて。



浄土

第五章で一番大切な事。「念」。念仏。念…。これは、Satiと同じ意味で。Satiとはマインドフルネス。それの方が、適訳で。心の念ではちょっと説明出来ない。念仏、信念、心から信仰する。結局、念は Sati。「信」は「saddhā」とパーリ語で言いますが。英語のマインドフルネスの方がピタッと来る。心がパーッと明るく、その中で自分の心の本性をじーっと観ると。

実はそれは清浄。本性は素晴らしく清い。漢語で言えばそうなるけど。実際に言えば、私の湖には野鳥が飛んで来るわけです。カナディアンゲースがいっぱい飛び周って。

疲れたなーと思って、湖を見るわけですよ。対岸には雲が上がって、そこで、静寂な風が流れて。これが荘厳浄土なのだという心が沸き上がって来るわけです。



「ライスレイク」のカナディアンゲース

浄土はこの地球にいっぱいあるわけです。それぞれ。自分の心が実は浄土の心だけれども。それを雑念で目隠しになっているから、秘密の浄土が見えないけれども。私みたいに世間から離れて、ポツンと小屋で翻訳しながら、疲れてスッと見た時に、「あーここが浄土なのだなあ」と。一切の雑念も無いし。只一人、黙々と。時間が来たら、家内が作った料理を食べて、また降りて来て。それぞれの持ち場で楽しんで。

何でも良いから。お経を詠んでも良いから。自分で座禅しても良いから。自分で自分なりに仏道を歩んで達成してください。つまり、自分以外に居ないし、自分の心以外に自分を指導してくれる先生は居ないわけです。だから、自性という。この自性は心の大地。だって心はヒマラヤも大海も見える。心の中にもあるわけです。あるから見える。それを投射して一体化して見える。心が無ければ、山も無いし、海も無いし。あっても見えないし。

だから、心は実に不可思議。それをちゃんと持っているわけです。そういうふうには、一人で過ごす時間が長いから、自然と自分の心と外が一体化し始めて。そういう事で、植物も不可思議に非常に香りの良い匂いを出すわけです。世にも不思議な芳香というか。反応しているわけ。

特にアンデスの山の道場に植えた菩提樹はおかげさまで、スーっと高くなって。光り出すのですよ。これで菩提樹なのだなあと。普通の葉っぱではなく、エネルギーをバーッと出している。それで周囲の木々を護るのですね。神木という事。皆さんも早く、そういう環境を。何処か山道見つけて、小さい木の下でも良いから。そこで座れば、もう、最高の人生です。お金も使わないし、食べる物は何でも良いし。非常に心が良くなって。そして、帰ってぐっすり寝れば、極楽浄土。



エクアドルの菩提樹

心が、想像を絶する力を持っているというのは、宇宙全体の心と私の心が一緒なのですよ。一中一切、一切一中。これが法華經の核心なわけです。つまりここ心。さっき、摩尼珠の秘伝を示したけど。それは当然何を言っているのか分からない。何を言っているのか？でも、示したという事で心はキャッチしているから。何時の日かそれが華開く時が来るはずだから。種は植えた。だから以心伝心で。幾ら考えても、あの動作は、誰も何も分からないはず。という世界をちょっと紹介しました。

正しい懺悔をして、三身を観る

全ての迷いの見方は、全て自分から来て。邪見とか正しいという事が発生するから。良い事、悪い事。クサラ(善心)、アクサラ(不善心)。全て心から発生して。それをしっかり観ながら生きなさいと。これが、懺悔の法門。これが本当の懺悔、懺悔。

「この法門は考えることも、想像することも出来ない最高の学びであり、自分を正しく観ながら、正しいこの正法は本当の学問であり、無量の仏の道の誓願でもあります。」と。

「心行は、本当の正しい、迷いから離れ、亦、常にパンニャ(般若)で、妄想を除き、仏性即心性。その心を良く観ながら。そして、その仏道を進めて下さい。そういう風に修行するのが本当の懺悔です」と。

懺悔、懺悔で頭を下げる事ではなく、自分の本来の仏性を正しく歩む事が本当の懺悔であると。ま、そういう心で。出来るだけ、欲は少なく。財を成すという事からも離れて、心からお釈迦様に帰依しましょう。その帰依する時には、邪見もなく、こうしたからご褒美が一杯来るという事ではなく、只、帰依してください。

特に名声の欲から離れて、自分の自尊心からも離れて。普通の人には昼夜、三帰依戒を言っても、本当の帰依には会えない。それぞれ、自分の心を観察し、自分から仏に帰依するしかない。それは自分自身で、行動する事です。帰依自身の中に、三宝が入って来る。だから、ブダンサラナンガッチャーミー、ダンマンサラナンガッチャーミー、サンガンサラナンガッチャーミー。という本当の宝が心の中に入って来るから。これが、本当の懺悔。

あなた達の身体の中にはこの三宝の境地がしっかり入っている。そして、あなた達の身体の中には三身が。三身というのは、毘盧遮那身(法身)、盧舎那身(報身)、化身(自身)。が一体化している。それをしっかり観なさいと。昨日も説明したように、これも秘密になるのだけれど、第一禪定に入る前に入我我入をやります。入我我入の最初の段階で法身に出会います。それは全宇宙の無量の仏を心の中で観る事が出来る。それは莊嚴を十回書かれた言葉でも言えないくらいの、神以上の存在を観る事が出来る。

私はお釈迦様を見た事がありますが、それは莊嚴で凄い方だなあと思ったけど、それを無量無数以上に遭遇する。という事を観なさいと。それを只、言葉で言った場合には右から左。只その状況の体験を説明しているから、「あ。そういう世界もあるのだな」と。実際にあります。

そういう事を検証する事によって、心が大きく広がって来る。大きく広がる事によって、一中一切一切一中。一つの心が、全宇宙の心と一体化して、その恵みが発生するわけです。一人でも良い。私は先生によく言われました。「君が悟れば、全てを悟らせるのだよ。全てを救えるのだよ」という事がこの経典にしっかり書かれている。

良い先生に出会えるというのはまず、稀。そういう先生は滅多に人に会わないし。全部拒絶してしまうし。唯、因縁によってだけ会える。そういう先生は、ムービースターとか名声が大好きでは無いのだから、真理の中で生きているから。法を伝える人には会えるけど、信仰の優れたおばさんでも滅多に会わない。

つまり、自分の心の内性を観なければ。それは外から三身は観る事が出来ないと。全ての現世の人々は常にあちらこちらと、まさに天の雲のようにあちらこちらと動いて行く。そして、日の如く、太陽が照らす存在を雲で笠かけたように見る事が出来ないように。あっち行って。こっち行って。そういう偉大な太陽が何時も輝いているのに。とても、自性を雲で覆って観る事が出来ない。



正法は自分の迷いを取り除く事だと。迷いは何処から発生するのか？といったら、貪瞋痴。これが大悪魔。仏性という仏の中に居るわけです。プラスマイナス。ハハハ(笑)。

だから、まず、貪瞋痴を抑え込めば、自然と仏性が輝き始め、修行も上手く行くわけだ。修行をせずに、只、ありがた経では貪瞋痴が大悪魔だから、何時でもおかしい事が発生す。今のヨーロッパ、アメリカが最高の例で。幾らお金があっても、もうヨーロッパは崩壊するでしょう。アメリカももう国が無くなる。幾らお金を刷っても、もう無駄な事。最早、アメリカの債券は誰も買わない。アメリカだけが買っている。空売りで。本当のお金が入って来ない。

それに、石油を売ろうとしても、アメリカドルが拒絶され始めている。金で買ってくれと。金で買ってくれたら、石油を渡すと。穀物も、アメリカドルは駄目で、金で払ってくれたら、出すと。だって何時崩壊するか分からない。金はどんどんどんどん上がって行くし。皆さんに数年前に言ったでしょう？金銀を買っておきなさいと。それはあなただけの為じゃないよ。あなた自身も助かるけど、これからは、紙幣経済が崩壊するから。TOYOTA さんが一生懸命頑張って、輸出すれば大丈夫。それも安い金で輸出すれば良いけども。今、アメリカのフォードが80万円の新車を発表している。日本でも頭の良い人は軽自動車買うでしょ？それで十分だから。そういう時代にもう突入したから。

アメリカの場合は労働者が居ない。軽自動車を作るレーンがあるわけ。大型車のレーン。小型車のレーン。日本は全部持っている。只、ロボットである程度までは出来るけども一番安いのは人間なのですよ。昔言ったでしょ？アメリカでは1ドルだけど、中国では10倍の価値があって。人口が14億ですよ。中国が今、真面目にやっているから、どんどん伸びているけど。アメリカはトップだけがお金を入れて、腐敗しているわけですよ。

日本はアメリカがお金が無いから、何時も日本を脅かして全部盗って行っているわけです。政治家は全部オブラートにして。全ての新聞社もオブラートに包んで、目隠ししているわけ。何故かと言ったら、その昔、私は新聞社に勤めていたから。カナダへ行

く前に。読売、毎日、朝日。全部同じ状況という事が政府の統制で、出来ている。

昔から一緒に、私の友人も務めていたけど、同じ情報元(共同通信社)から一般の新聞社が買わなくちゃいけない。お金出して。という風に全て統制されているから。事件があっても、50%くらいしか伝わらないようになっている。局長がポンポンポンと。他の新聞社も情報をやり取りしてポンポンポンって。同じ情報で。

今から50年以上前ですよ。テープでね。お互いにテープでやり取りして。そこにしょっちゅう、政府の役人が特別な部屋に呼ばれて、お茶飲んで検証して。これが50年以上続いているんだね。私が去ってから。

これからの若い人はまず、老人を助ける事。老人を切ったら今までの知識が全滅してしまう。ゼロになったら何も出来ないよ。心良い老人は一生懸命助けてくれますよ。色んな事教えてくれるし。体験を一杯持っているからね。そういう方向で行けば、これから日本はなんとかなると思います。アメリカは老人が居ないのですよ。孤独老人で全部ほったらかしだから。老人も教える気も無いし。一人森に入って暮らしているだけで。人間皆一緒だけど、そういう状況にならないように。ま、それは余談として。

だから、何時でも太陽が輝くような叡智が、あるのだけれど、自分の心が貪瞋痴で雲のように遮るから。そういう素晴らしい世界を観る事が出来ない。又、そういう大地に入る事も出来ない。暗いから。これが本当の懺悔。で、見るようにすると。三身という事。大日如来、法身、毘盧遮那仏ともいうけど。化身というのが私達。身体がどんどん変わって行くでしょう？

そして、自分でその雲を取り除いて、正法に入っていけば大丈夫。これが本当の、正定法身仏善知識という事。他人の事をあれこれ言うのを止めて、自分で自分の事をしっかりと。帰依しながら生きて行きなさい。と。

又、こう言っているね。何千億という化身は何も考えないから、その法性は一切空一念。何も無いのではないのです。色即是空空即是色の社会だから。空というのは何かと言ったら、そういう物体か？という。そういう状態が発生するわけ。だから、顕微鏡でも電子顕微鏡で見ても見えない。その状況の作用という法が動いているから。連鎖反応なのです。あなたを突いて動く、動いて当たる。また動く。

それから、交流は上がって下がって波の図形でしょう？その波の波動はどうして発生するか？それはどんな物理学者も分かっていない。でも在ると。法があるから。空の法則があるから。そういう事を理解しようとしなくて。只、一念。何も考えなくて。特に考えるという事は、あれこれ考えて、よく悪事を、悪い方向も考えてしまうから。

それから一切離れて。只、慈悲の心で生きて行くと。だから、皆さんに昨夜言ったように、このお経を肉声で聞かれるという事は、最早、菩薩の位に入ったから。何故かと言ったら、この日本で、肉声で、このお経を解説する人は誰も居ない。何故かと言ったら、パオの行をした人間は私一人だけです。後は全部嘘。その証明に、ヴェダナーヌパッサナーも全部通過して。もちろん、チッタヌパッサナーも先生から認可されて。それからカーヤヌパッサナーも、三つ通過したから、スリランカの最高峰の道場でやったら、自然と通過しました。

四つのお釈迦様の教えた瞑想が一体化した時に、本当に通過したと言える。だから、日本にも誰も居ない。スリランカのナウヤナ道場。2千年以上、誰も日本人でそこで修行した人は聞いた事がない。誰も通過した日本人は居ない。パオでは名前は載っている日本人は誰も通過していない。

それで、心随観は私の印幻先生から公案を渡されて通過しました。カーヤヌパッサナーとヴェダナーヌパッサナーはスリランカで通過しました。すぐに、ゴエンカに会いに行ってくれと言われたけど、私の道は違うし。それにチッタヌパッサナーは先生から言われた通り進むし。法随観はパオで通過。四つ。

これを聞いたスリランカの弁護士が「あなたのやったこのサティパターンは神の行だ。これからスリランカ全体にあなたの事を発表したい。」と言われて。私は有名人になりたくないから、そのまま連絡しなかった。というのは、それを発表して、私が言ったって、お坊さんでも分からないのに。只、持ち上げられて飾りに成るわけよ。私にとって意味無いですよ。達磨大師様でも石投げられて、法を伝えて、インドに帰って行ったのだから。只、法を伝えれば良いだけであって。

そして化身である、あなた方が、そうして修行して行けば、さっき言ったようにディーパンカラブダ、大燈明仏の一灯を燃やせば、千年の間違った考えを取り除きます。と。そして、万年の愚かな思いや怨念とかそういうものも消えてしまうと。それは、燈明という、もう一回説明するけど。座った時に、この光(部屋の明り)でもなく、太陽の光でもなく、ずっと座ったら、心の中に灯がスーッと明るく、正に燈明の光が出て来るわけ。もの凄く、心地良い状態になります。燈明と言うしかない。燈明を燃やすのは自分の心になるから。これが本当の懺悔です。それから、こうして良い因縁を作って行けばね。

定慧

第七品。この中で大事な所はね、「即身」というこの心は、その名は、叡智の慧、木佛の定というのは禅定の定。定慧同時。心の慧と仏の定、「定慧は同じ」と述べている。心の動き、真意や意思とかの「意」。その意の中に、自性の事ですね。自分の自性。これを意と訳して、その意の中には清浄悟備法門が備わってます。さっき言ったように、湖の側で、ずっと経典を訳して、サッと湖を見た時の、あの莊嚴浄土が発生するわけです。

だから、こういう中で学び学びというよりも、大自然と自分二つ、一体化に成る事が本当の正しい生き方であると。ま、そういうふうに。

これを聞いた時に、**法海**禅師が大きな悟りを開いたわけです。法海禅師は慧能様の第一弟子でこの経本を編集された方。

その心は、「元来より仏である」と。では、何故仏であるという事を悟らないか？自分自身でその心を曲げて、仏である事が分からないという事。自分の定慧の因縁が分かった時に、「定」「慧」が離れたものではない。一体化していると。別々な事ではない。定も智慧も一つの心から出ているから一体化。という事がしっかり分かって、それを大悟したと。それは座って行くしかない。その道筋は、羅針盤は私が言った定慧の事で。

只、ブワ〜と座るのではなく、智慧そのものが定であり、定＝ジャーナですね。ジャーナが智慧そのものであって、一体化している。二つのものではない。こう、瞑想して雑念が入ったら、定が潰れてしまう。ジャーナが潰れてしまう。ジャーナ自体がパンニヤ(般若)なのです。だから、パンニヤ(般若)の力で色々なドアを開けて観る事が出来る。

パンニヤの智慧が発生するから時空を超えて、未来をも観える。これから何が発生するかを観る事が出来るわけです。自分の欲で観るとジャーナが潰れてしまう。だから、欲は出さないように。ジャーナで未来を観て、「この株でなんぼ儲かる」って言ったら、それは・・・(笑)。ジャーナが潰れてしまう。

只、私が金銀を買いなさいと言ったのは、これから経済がおかしくなるから買った方が良いでしょう。自分自身の欲ではなく。それが自分の欲だけでやったら、ジャーナが潰れてしまうけど、人の為に未来を観て発表しているからその通りになっている。なっているでしょう？でも、その時は半信半疑で無理だけど、その時買っておけば、安定する。その昔、ビットコインが100ドル～200ドルで。息子に「1000ドル余裕あるから、買ってくれ」って言った。20枚買っていたら、今どうなっている？観えないのですよ。超一流の工学部の大学卒業して、コンピューター専門やっても観えない。100ドル。スーッと200ドル。今、ビットコイン幾ら？

参加者「今、1000万円ですね。」

当時、一万円くらいで。20枚買っても20万円。

参加者「私も、その頃、誘われましたけど。そんな詐欺みたいなものいらないと断りました。買ってあげれば良かったと後悔しています。(笑)」

そういう事が観えるわけですよ。息子は私がお金払うのだけれど、息子の為にもと思って、本人が「いらぬ」って。「あ。そう」と。私には意味ないのですよ。水飲んで暮らす人生だから。

今、言ったように。唯々、仏を信じて。そして、蓮華の華のように口を出したときは、法香。他人が聞いても「良いな～」という。法の香りが発生する。当然、天界に生まれます。生まれない訳が無い。皆、一生懸命「(天界に)生まれたい。生まれたい」と。だって、天界で鍵開けてくれるかどうかは、自分の意思で開けられるのでは無いし。飛行機に乗るのも切符買わなきゃ乗せてもらえないし。タダ乗りで行きたいと言っても、無理ですよ。

幾ら、言葉であのお経を読んでも、それを実行しなければ、お経を読んだ事にはなりません。お経を読んだら、そのお経に書いてある事を実行してください。これが心の迷いを転換して、華のようになると。その心を転換した事が、「法華」という。法華経の法華。これが本当の法華。

だから、お経を読んで、只、やっても、その奥義が分からないと、自分のあれだこれだと雑念が出て、仏道を邪魔する。そこで、何も考えずに一所懸命、無欲にやれば、仏道に入っていくと。

さっき言ったように、「有」と「無」は一体化している。この事は考えられないと。有も無も一体化。それを、「無だ」と。「無・無・無」と。これは奥義なのです。有も吹っ切れて考える事も出来ない。それを体感して、初めて「無」という事が分かる。昨日言ったように、私は計算上、ゼロでどんなものでも創れる。カリキュラスと言ったら、日本語で微積分。

でも、お釈迦様の法へは全く遠くて、進めないから、数学は止めて。唯、座禅、お経で来たわけ。「これは無理だな。幾ら数学をやっても」と。コンピューターよりも速いので

すよ。数学の微積分でやれば。パパパッと。でも、これでも無理だと。その時、計算した時に、ビッグバンは無理だと。光のスピードが最高だけど、最初のエネルギーは光のスピードの五万倍のエネルギーがなければ、この宇宙は存在しないと。だから、最初からこのビッグバン理論はおかしい。と思っていた。友人には説明したけど。で、実際、そういうもの(ビッグバン)は無いとなっている。

私はラッキーで数学をやったから、そういう事を計算出来るけど。一般の人には全く関係が無いし、お金を儲けるほうが大事だから(笑)。私は、お金と関係の無い世界を走ったら、良い会社に当たって。年金が入って来る。人はお金を求めながら、良いポジションに着けないで、悩んでいるわけですよ。分からない！本当に！「お前は、日本に居たら億万長者になれるのに。何故、日本を出た？」と。私は馬鹿だけど、親には恵まれて、お金よりも真理が知りたいと。

で、私は一生働かずに暮らせるわけですよ。ところが、こんな？遊んで？これが人生？なのか？と。おかしい？これは自分で自分を殺す事になるなど。わざと苦勞を願って、苦行というより、貧しい生活をトントントンとやって、そこで初めて生きるという事が分かり始めた。

だって、そうでしょ？生まれた時から、女中さんは居るし、何時何でも好きな事が出来て、働かなくてとなってそれを続けて行ったら、完全におかしな人間になってしまうよ。体験を積むには、やっぱり下積みから。雪の下に入って、仕事したり。冷たい中、暑い中。そして、段々と心が成長して行って、こうして。お金から離れようと思っても、友人が大金持ちになって「はい。これ使って」となるし。そして、皆さんから沢山、お布施もらうから。それであちこち修行しに行ったり。それで、恩返しなきゃいけないからね。今度、皆さんとインドで仏跡を周るのを楽しみにしています。

ここに入っている三身。これが分かるまでずーっと続けて行くのが一乗の教え。これ、一乗。今、私が言っているのは、慧能大師様が言う最高の教えを、今、伝達しているわけ。一乗です。一乗。大梵天王問佛決疑経も一乗。「一乗」と付けた時は、その意味も分からなくて、只、エカヤーナ。こりゃ良いなど。一乗。一つの教えだという事が分かって。では、一休みして、本題に入ります。



不動明王

結局、自分の究極は、お宮さんに行けば、こういう円い鏡があるでしょう？大円鏡自性清浄という。それが全てあなた達、お宮さん、真実の鏡とあなたは同体。しっかり平等だと。心の病は無くなると。そこを良く観察し、「知見秘功」つまり、見たから良いとかそうじゃなく、ヴィパッサナーでそれを良く観察する。

「聖処索智同円鏡」鏡を見るでしょう？それはあなたの心そのものであると。五、六、七、八。これはね、五識、六識、七識、八識。皆さん正常な状態でこう見ているでしょう？その識と、それからもう一段、無意識、深層の識というのは、夢の中でもっと夢を見ていくでしょう？それを破った奥に阿頼耶識という、その事を言っているのですけれども、阿頼耶識に入るにはニミッタを使って第四定禅で観て行く時に、自分の心の中の過去を観る時、過去は、阿頼耶識に全部入っているから。映像としては、ま、そこまで行かなくても、深く夢の中に入って行く。

私の場合には、夢ではなく、意識の中で阿頼耶識に入った時に、無量の映画のカセットのような、一緒になってそれがダーッと在ってね。それが巨大な壁に一つ一つ、小さいカセットみたいな。その中で阿頼耶識。全体としてそういう印象。

それをどうやって、カセットを開けるかというのは、第四定禅で自分の過去をずっと観て行くわけ。その前世、第一、第二……。阿頼耶識にはありとあらゆる、想像を絶する過去が在るから、それをポンポンと観ても何が何だか分からない映像でお終いになるから、それを一つ一つ、過去一世、二世、三世……ずーっと観て行くわけ。パオでは第六世代前まで観たら、それで OK。それ以上は観なくて良いと。

私の場合には、過去二十世まで観た理由は、一体どうしてこうなったのか？という事をちょっと見たかったわけ。そこでカクサンダーブッダに会って。その時のダンマを探し続けて。その為にカクサンダーブッダに出会って、現在こうなっているという事が分かった。それ以上観ても同じ繰り返しだから、そこで止めて。

今度は未来を観る。未来をずっと観て、弥勒菩薩様の居る第四天、兜率天で涅槃に入ります。それからまた、新しい展開が始まるのですけれども。それを五、六、七、八と。簡単に説明すれば、そういう状況。

ある人は、何時涅槃に入るか分からないから、ずーっと続ける場合もあるわけ。普通は、ソタパナ (sotāpaṇa、預流果) に入れば、七回生まれ変わるまでに涅槃に入ると。チベット仏教では、ダライ・ラマが法輪でやって、法輪を回せば、七回の来世で涅槃に入ると。これは何時涅槃に入るか実際に確かめさせます。というのが正式な手法で。

五、六、七、八と。八は阿頼耶識の事。数字で表しているから。それがちゃんと分からなければ。阿頼耶識と言っても、実際に体験した人は、どういう事になっているか分かるけれども。ヴィパッサナーをどうしてもやらなければ、この本は読めないようになっている。

そういう阿頼耶識の世界は密接に繋がっている。私達のこの今の正常な生活の中で。昨年、阿頼耶識に入る方法を、違う手法で皆さんにちょっと発表したけど。何の事が分からなかったかもしれない。孔雀が出て来て、文殊菩薩が出て来て、臨済宗の無位の真人とか。それをずっと追って行けば阿頼耶識に入っていきます。

あなたの現状、今世しか見えないけれども、ヴィパッサナーの場合には過去を追跡させて行きます。六回観て、それが本当かどうかは、過去のルーパ(物質)と現在のル

一パ(物質)が繋がっているかどうかも観させます。それが合って、本当に過去を観たという事。又、未来も観させます。だから、本を読んだだけではダメ。体験が必要なのです。又、この経本、この手本があれば、どういう状態になったかよく分かるわけ。そこに到達したかしていないかも。

「三身元合体」と。毘盧遮那仏と法身仏と化身仏が一体化していると。さっき説明した、メッタ、カルーナ、ムディタ、ウペカ。「四智慧本心神妙」と。四智慧に入っていくけど、もっと深く言えば、五、六、七、八の「四智慧本身」が正解。

一般の人はメッタ、カルーナ、ムディタ、ウペカをしっかり観れば、ほとんど仏教の最高位に達しているから。ここをしっかり観るには、これ「Knowing and Seeing(パオ・セヤドー著)」がどうしても必要。中身は私は分かるけれども、この難しい中身を皆さんに説明しても無理だから。

三身は全て一体化していると。そして、その中の心が四智慧本心神妙と。ちゃんと心の中にあるから、それが分かっただけでも、それ以上はもう体験するしかないから。その手法はこれ「Knowing and Seeing」で。これを通過するのは至難の技で。ま、それを覚えておけば、何時の世にか、種になって花開く時が来るから。あまり詳しくやっても、頭がおかしくなるから、かいつまんで解説しています。

とくにこういう経本を幾ら読んでも、体験がなければ意味が無い。色々書かれているけど、この世の作家が書いた事であって、それを体験しなければ、意味が無いという事で。「経典を読むな」というのはそういう事で。幾ら経典を読んでも、それを理解出来る力がなければ。幼稚園の頭で読んでも理解出来たどうかはまた別の話という事です。ね。

大宇宙を包む虚空

「あなたはこれを観たのか？観る事が出来るのか？」という。「虚空の想をちゃんと討論出来るのか？」と。これは体験するしかない。言葉では言い表せない。強烈なものです。虚空とは。大宇宙を一瞬にして体感してしまうから。

無数、60兆～100兆の銀河、それを包む虚空だから。それはパワフルですよ。空とはまた違います。虚空。体験するしかない。あなた達が天体望遠鏡で宇宙を「あー見た」と。ではない。体感して観てしまうから全部。だから、仏教というのはそれほど強烈なものです。それがちゃんと心の中にある。で観えると。

だから、あなたの心はこの虚空の元にあると。という事は「本来無一物」。なぜ？あなたは心を観えますか？心の物質はありますか？でも続いて行くというのは、この強烈な虚空を体験した時に、あなた達はゼロ。本来無一物なのです。億兆の銀河を包むこの大宇宙が心の中にスパッと入って。

本当のあなたの自性は、正に本来無一物。だから、数量では表せない。
不可説不可説転 = $10^{7 \times 2122}$

10の80乗で地球の物質が全部。それでも足りないし。無量阿僧祇劫になったら、吹っ飛んでしまう。それでも表せない心の仏の数。それを全部包む心だから。銀河はすっぽり入るし、大宇宙もすっぽり入る。結局、無限の究極は無一物。

という事は「無」は「有」であり、「有」は「無」であるという。本来の姿がそうなっている。

だから、般若心経で「無、無、無」と。だから、どの偉いお坊さんも「無は何ですか？」「有である」と。「有は何ですか？」「無である」と。とんちんかんになってしまう。だから、さっき説明したような世界に私達は生きているから、夢が陽炎であり、陽炎が私達であり、私達は陽炎で夢の中で暮らしているわけ。だから、執着しても意味が無い。この地球上の宝を全部貰っても、陽炎の世界だから。それは全く意味が無いけど。

では、物を食べなきゃ餓死するじゃないですか？でも、達磨大師様は座って物を食べない。陽炎の世界で逆転して、食べなくても生きていけるという力を持っている。普通の人は、その力が無いから、転生して他の身体に成るけれど。だから仙人は物を食べなくても生きて行けるといふ。霞を食べて生きていくという。実際にそれを実行して生きている仙人も居るみたいで。私は知らないけど。話だけで。

そういう話も包み込んで、それが本来無一物という。全てを私達は持っているから。持ってここに来るのではなく、もうそこの中の存在で、無一物の存在だから、持って来る物が無いと。

「その鏡を毎日、一所懸命拭き取る」と。「そういう物は無いのだ」といふ。本来無一物であるという事。だから、何も無いという無一物ではないわけ。有が無であり、無が有であるという、それをしっかり観た時に、本来の無が分かる。これが本道の真実だと。

これが、「根本の見照成仏」といふ名前が付くわけ。「見照、見照。見照しなさい」といふけれど、ここを説明していない。残念ながら体験が無いから。まず、虚空を体験しなければいけないから。虚空自体が出て来ない。そう言えば、虚空を説明しなければいけないけど、その行はどうしてやるか分からないから。だから、困るわけです。お坊さんは、だから、こういう本があれば、説明しなくても良いわけです。ところが、この本(壇経)は本来の仏の教えだから。これを消したら、もう仏法は消えてしまうのだけれど、ちゃんと仏法は何処かで残っていたわけ。南華寺で。1300年の眠りから覚めて。

この本(六祖壇経 中川孝 著)を見て下さい。全部×××で。私が調べたら、×××。バツで(笑)。だから、私が「あなた達は菩薩の位に入った」といふのは、こういう事を知っても知らなくても、三身に聞いているから。いふのは、毘盧遮那仏、それから、報身仏、化身仏が一体化している。その一体化したあなたの耳で聞いているから、最早菩薩界に入ったと。

日本では「はい、菩薩界します」と。それは空論であって(笑)。この実態から大いにかげ離れているでしょ。だから、これからあなた方は大いに生き方が変わって来ます。いふのは、心でこの事を聞いたあなた方は、三身に聞いてしまっているから。これに出会う事は、全ては縁なのです。縁。これは、皆さんとこうして出会って、縁以外に無いわけです。あなた方は不思議な霊光が何時も現れている。これは本当だけど。これを説明したら、また非常に難しい。

「知らない」といふ法をずっと守って行けば、「空知」。全く知らないという事になる。空知。その元を正せば、「太虚」。大きい虚空が一瞬の雷のようにしてバーン！と。現れて来ると。それは、「一切有為法 如夢幻泡影 如露亦如電」の事。雷のようにバーン！と。つまり、虚空を体験しなければ、これ(壇経)は読めないわけです。これを朝から晩までやっても、名号を唱えるくらいのもので体験は出来ないわけ。

「応作如是観」といふのは、ここ(壇経)で示した大虚空を知りなさいという事。それは一瞬にして雷のようにバーン！と出て来るから。如露如電と。

これを体験した方でも、聞いてくれる人も居ないし。場所も無いから。でも、こうして達

磨大師様が羅針盤にして残してくれるわけです。これを全部詳しく説明してもいいけど、体験が無ければ理解が出来ない。体験した後で、「あ。そうなのか」と。だから、私は指南役で「こっちだよ」と発表しているだけ。体験しなくても、あなた方の三身に報告したから、永遠に私の言葉が残っているから。何時の日か花咲く時が来ます。直ぐに来るか、遠い未来に来るかそれは分からない。けど、聞いたという事で最早、種が落ちたわけ。と言うのは、あなた方は感情があるから。種が地に落ちて、それがまた花咲くわけ。無情であれば、それは種が落ちない。心で受け取れないから。



無上大涅槃

諸行無常という言葉を知っていますか？これは消滅の法。「消滅はまた別であり、寂滅はまた楽である」と。結局、所業が何時もクルクルクル回るけど、常に回ると。その生きて死ぬ、生死を繰り返す。消滅を以て寂。それを超えた時に、寂寂断見聞の世界を観るわけです。それを観た後で、蕩蕩心無著という楽の世界に入っていきます。ゾブ

ラのダンスみたいに。ビデオを紹介したでしょう？ああいう素晴らしい世界に入っていきます。

仏法というのはそういう世界に導いて行って、永遠の極楽浄土の世界に入っていくという。極楽浄土に修行しないで入った場合には一劫の間、花の中で眠るわけです。ここで修業した場合には、一瞬にして観る事が出来る。正に、忍野八海で皆さんが阿弥陀様をご覧になられて、最早浄土に行く決定をもらっているから。その切符は落とさないようにと言っている。

つまり、一切の諸法は涅槃の世界に入る事であると。全て涅槃。このままこの世界で繰り返していたら、何時の日にか、ウクライナのような所に生まれたりどうしますか？幾ら良い事をして、オールスイートで何百億、何兆円と稼いでも、一瞬にして地獄のように崩壊して死ぬか生きるかという状態も発生します。だから、涅槃に入れば一切そういうものから離れるから。早く彼岸に達してくださいと。

「無上大涅槃」これ以上の涅槃は無いというのは、「縁命浄守肅照」というのは、燈明が心の中で発生すれば、その事。だから、静かに瞑想すれば、いつの間にかこれが出て来る。最早、無上大涅槃の世界に入っていく。説明はそれだけで十分。

雲巖曇晟(782年 - 841年) 禅師。この方が曹洞宗の遠祖。名がここにちゃんと書いてある。南嶽懷讓(677年 - 744年) 禅師は臨済宗の遠祖。だから、曹洞宗の方は、ここを目指して、必読で分かなければ、曹洞宗ではない。特に、名前がちゃんと載っているから。遠祖の青原行思(? - 740年) 禅師の所へ頭を下げに行くには、慧能大師様が即身成仏されて全身舍利されているから、頭下げに行かなければならないわけ。その名前も教えない。只、曹洞、曹洞でお終い。はっきり言って、お父さんをほっといて、貶して、「そんなもの無い」と。自分が全て解ったように生きているから。これは、大変な過ちであります。臨済宗の方ももちろん。ここに名前が載っているのだから。千三百年前に書かれた時に。これは現在作ったわけではないのです。

つまり、「天台止観法」の門は、維摩経から出ているという事。不可思議解脱の法門。その基は、心地。心地と書いてある。私はこれを見て書いているわけではないですよ。だから、南華寺ではショックを受けるわけです。莊嚴浄土自性心地とバン！と書いたから。ここにちゃんと、維摩経の極秘の所。

という風に、頭では出来ないわけ。心で私がただ書いているから。書いたら、ここにちゃんと載っているわけ。これを見て書いているわけではない。何故かと言ったら、止観法門=ヴィパッサナーね。維摩経の基は、心地。それも体験しなければ。「心の地。なんだろう？」と。

これは、涅槃に入る前の肅滅の大世界があるけれど、それは体験しないと分からない。何故私が、9月23日と言ったのか。23という日は、3月23日。なんて言ったら良いのかな。それは大涅槃の門が開門する日なのです。その世界が開門して9月23日と付けたのは、その日に門が閉じる。23というのは不思議な時空で。西洋では23が全てを発生する日なのです。だから、3月21日春分の日が三日目が三日月。で周って、9月23日の三日月。この空間。だから明日(9/23)で法話会がお終い。

私はこれを目指してやったわけではないけれど、「あ〜そうか。とても神秘的な日に終わるのだなあ」と思って。そういう事です。



エクアドルの三日月

「全てを離れる」と。禅定。何処にも住まないで、離れて。「十善肅然生無性 離正善」その心性は、虚空。だから、虚空を体感すれば、この意味がスッと分かるけれど、虚空を体感しなければ、幾ら読んでもなぞなぞ解きになってしまう。

心を悟るというのは、自分の見照によって法を観ると。これ Knowing and Seeing (パオ・セヤドー著) で実際に心が観える。ズーっと。結局、テラワードも大乘も密着しているわけ。テラワードでこれだけやっても、六祖大師のこの文を読まなければ、結局、ボケてしまうわけです。

テラワードでも立派なお坊さんは瞑想して行きます。大乘もテラワードも一体化しているわけ。片方だけに偏ると非常に難しい行に成るけれど、二つの行をやれば、明解に理解出来始める。と言っても、それは非常に不可能な事なのです。南国に行つて、言葉も分からない所で、座ったって不可能。ただ今は、英語の世界になったから、英語で分かるようになったから、この行 (Knowing and Seeing) が簡単に出来るけど。この行 (Knowing and Seeing) を終えた事によって、この事 (壇経) が分かる。漢字。

だから、南伝の人が幾ら修行しても、漢文で書かれた究極のお釈迦様の言葉、この漢文も分からなければいけないわけです。そうしたら、日本で生まれたらまだ良いけれど、他の国ベトナムとかで生まれたら、今は不可能。ベトナムは、昔は漢文使っていたけど。

だから、私は非常にラッキーなわけ。こういう物が読めて、又、私の説明が「ここだよ」という事で。一生賭けても出来ない不可能な事が、発生するわけです。中川孝先生が一生を賭けたけれど、この本 (壇経) に出会えないと。という事が発生するわけです。

心知。また心地。無比自性界。これ以上の界は無いという。心地無比自性の智慧であると。心地無乱自性浄不増不減。これが自分の金剛であると。だから、私の納めた荘嚴浄土自性心地の心地の意味がここにちゃんと書いてある。1300年経って、慧能様の言葉を今、生きた人間が発表しているわけです。それも私が、これを見て書いた

わけじゃないし。心地というのは非常に大切。

特に照見五蘊。五蘊幻身。幻の身体である。その幻の究極は一体何なのか？それは輪廻。輪廻が真如である。クルクルクルクル回る。法がこの輪廻によって回るから、結局、不浄。私が不浄だから浄に向かうのだけれど、輪廻によって不浄が発生すると。何故かと言ったら、簡単。アナタ(anatta 無我)。アタ(atta 自我)とアナタというのは自分じゃない。本当にアナタは、他人。それからアニチャ=無常。何時でもクルクル。そしてドウッカ=苦。ドウッカが発生して。この三つが発生するからアスバ=不浄が発生すると。その通り。

それをヴィパッサナーで観れば、アニチャ、アナタ、ドウッカが総結して、アスバ。ドロドロした汚いものになる。その中から、この汚れた悪世から蓮の花が発生するわけです。この悪世から生まれなければ、蓮の花は発生しないわけ。非常に不可思議な世界になっているわけ。ここが。

人間は綺麗な花を咲かす為に、綺麗な水の中で綺麗な花が咲くと思っているけど不思議。汚れた悪世の中でしか仏は発生しないわけです。蓮の花。だから、聖者の聖と悪。聖悪同根という。さっき説明した磁石の例え。ポジティブとネガティブ。ポジティブばかりだと蓮の花は咲かないわけ。ネガティブがあるからポジティブの蓮の花が咲く。

だから陰陽。男性も大切。女性も大切という。究極のリングムが意味がここにあるのだけれど、それをインドの人は分かっているから心から拝むけど、他の国の人は分からないわけ。ただ、道教は分かっているから、中国の人は受け入れている。

ところが、一般の社会で儒教を強烈にやった国、韓国では出生率が0.76で。国が滅亡に入っているわけです。だから、人間の下手な考えで自然に反することをやったら、壊滅的。壊滅どころか一時栄華を極めて全世界を制覇したイギリスの首相が「全世界を核で壊滅させよう」と言う。もっと恐ろしいことをやっている。これほど人間は狂っている。日本もそのイギリス真似て半身不随。

一切の法は肅滅涅槃であり、それは、その物より離れた所に在ると。この現世より離れた所に在ると。だから、この現世で幾らコンピューター使って科学的にやってもこの涅槃には入れませんという。心だけでしか入って行けない。



真如自性。明日は仏道の詩を説明出来るかも。確かここも欠落しているはず。仏道とはどうなっているかこの詩で説明して、最後、コツコツ不修善。それでお終い。だから、ここの説明は偉大な中川先生のおかげで欠落している事が分かりました。調べたら、そこが無い。非常に大切な所。1300年の間無いわけ。1300年前に書かれた過去七仏偈が失われている。それで南華寺を伺った時に、全寺を開放して「好きにしてください」と。そこで六日間。慧能大師様、即身成仏、全身舍利。有り難い事です。弘法大師様は岩の中だけど、ちゃんと座られております。それから、憨山大師も全身舍利、即身成仏。虚雲大師も即身成仏。同じように赤い袈裟を着て座られている。120歳。この檀経を検証されて死んでいった。三体が密接にこの檀経と関係している。全て即身成仏、全身舍利。こういう写真と本は未だ日本には無い。あなた方だけが見ている。



水源禪師法話集 127

(2024年9月22日大阪法話会二日目)

六祖壇經解説

2024年11月27日発行

編集兼発行 一乗禪の会